

令和 7 年 度
一 般 社 団 法 人 京 都 府 薬 剤 師 会
病 院 診 療 所 薬 剤 師 部 会 総 会

日 時：令和7年5月11日（日）14時～16時30分

場 所：京都府薬剤師会館 大ホール

次 第

司 会 評議員 林 明仁

総 会 14 : 00～16 : 00

1. 開会の辞 部会長 四方 敬介

2. 議長選出

3. 議 事

I. 報告事項

日本病院薬剤師会 第 69 回臨時総会 …………… 資料 1

令和 6 年度 部会、各WG事業報告 …………… 資料 2

II. 京病薬【功労賞・優秀学術論文賞・学術奨励賞・病院薬学賞】表彰授与式

III. 病院診療所薬剤師部会 部会長 選出

IV. 日本病院薬剤師会 代議員 選出

V. 協議事項

令和 7 年度 部会事業計画（案） …………… 資料 3

VI. その他

4. 閉会の辞 副部会長 友金 幹視

特別講演 16 : 00～16 : 30

「サードプレイスが育むウェルビーイング～職能団体が拓く地域共生社会の扉～」

演者 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター
特命教授 四方 敬介 先生

一. 協議事項

(第1号) 令和7年度事業計画（案）

(第2号) 令和7年度予算（案）

(第3号) 定款細則の改正

二. 報告事項

(第1号) 日病薬創立70周年記念式典の開催について

(第2号) 病院薬剤師確保の取り組みについて

(第3号) 令和8年度診療報酬改定の対応について

(第4号) 令和6年度病院薬利部門の現状調査の集計結果

(第5号) タスク・シフト/シェアに関する検討特別委員会の活動について

(第6号) 日病薬誌の電子版発行について

(第7号) 第8回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum について

三. ブロック代表質問（3地区）

P1

P7

P10

P15

P17

P69

P79

P126

P130

P131

P133

本会は、病院、診療所、介護保険施設に籍を有する薬剤師の倫理及び学術水準を高め、質の高い薬物療法の確保を図ることにより、国民の健康及び福祉の増進に寄与することを目的とし、その実現のため毎年度事業計画を立て実施している。

令和6年4月から実施された第8次医療計画には薬剤師の確保が明記されており、各地域で薬剤師確保・偏在対策が進められている。令和6年度診療報酬改定では、賃金引き上げのためのベースアップ評価料や薬剤業務向上加算、がん薬物療法体制充実加算及び医療DX推進体制整備加算等が新設されるとともに、ポリファーマシー対策としての薬剤総合評価調整加算の見直しもされ、その動向を注視していかねければならない。

また、医薬品の供給体制については、出荷調整、出荷停止及び回収等のサブライチェーンの問題が引き続いて発生している。長期化する医薬品の供給問題への対応にご尽力頂いていることに關して、会員の皆様に感謝を申し上げる。

薬剤師には薬の専門職としての資質向上のためのためまめ研鑽が求められている。薬剤師の資質をさらに向上していくためには、薬物療法をとりまく最新の知見を幅広く習得するなど、生涯研修の充実に努めなければならぬ。これを支援する観点から、今後も引き続き日病薬病院薬学認定薬剤師制度と認定薬剤師・専門薬剤師制度の一層の充実を図る必要がある。

薬剤師としての使命を果たすため、施設の地域性・規模・機能に関わらず、正確な調剤はもとより、病棟薬剤業務のより一層の充実を図り、医薬品の適正使用の推進、積極的な処方提案に取り組むなど、チーム医療と病棟業務に精通した薬剤師がその職能を活かし、適切な薬学的管理を提供することが期待されている。また、医療従事者の働き方改革に対応するため、薬剤師には医薬品全般に関わる業務効率の向上やタスク・シフト/シェア、電子カルテ・電子処方箋をはじめとする医療DXの推進が求められている。

しかし、薬剤師の不足及び偏在問題は深刻で、地域によっては恒常的に人材の確保が困難な状況にあり、新しい取り組みばかりでなく、基本的な業務の遂行にも支障となっている。第8次医療計画に基づいて厚生労働省が策定した薬剤師確保計画ガイドラインを参考に、薬剤師不足及び偏在の解消を進めつつ、地域医療介護総合確保基金を利用した薬剤師修学資金貸与事業や薬剤師派遣を行うための経費等あらゆる機会を捉えて就労環境の改善に努めることが必要と考ええる。

令和6年度の事業は概ね計画どおり実施できている。本会が取り組んでいる資質の向上、職能拡大、薬剤師不足及び地域偏在の解消を3本柱として令和7年度も引き続き活動を行い、以下に掲げる事項について取り組むこととする。

1. 医療の質の向上への貢献

薬剤師は、薬の専門職として薬物療法として薬物療法の提供に責任をもち、チーム医療の一員として患者に寄り添い、最適な薬物療法を提供することにより、医療の質の向上に資するための業務展開を図る。

- (1) 病棟業務（薬剤管理指導および病棟薬剤業務等）の充実を図り、患者に寄り添う医療の提供体制の確保を図る。
- (2) 多様化する外来患者および地域医療連携に対応するため、外来業務の充実を図る。
- (3) 高齢者はもとより、小児期、思春期、青年期、妊娠・授乳期、壮年期等、個々の患者に対する最適な処方設計支援・提案等を充実する。
- (4) ポリファーマシー対策を推進する。
- (5) 各施設の医療機能に対応した業務展開のため、薬剤師業務の改善を図る。
- (6) 医療 DX を利用した薬剤師業務の実践と課題について検討するとともに、会員への周知・啓発を図る。

2. 医療安全対策の推進

安心・安全で質の高い医療提供のため、医薬品の適正使用の実践と医療安全の更なる推進を図る。

- (1) 医薬品の適正使用に関する最新の情報の管理、提供体制を充実することにより、各施設における効果的な安全対策を推進し、重篤な副作用、薬害の防止を図る。
- (2) 医薬品リスク管理計画（RMP）の活用により医薬品の安全性の確保を図る。
- (3) ハイスクリク薬に対して適切な薬学的管理を推進する。
- (4) 未承認新規医薬品等を用いる場合に、適正な医療を確保するために必要な体制の整備・充実を図る。
- (5) プレアポイド活動の充実を図る。
- (6) 医療安全に関する講習会を開催する。
- (7) ICT の活用等を通じて医療安全を図る。

3. 地域医療連携の推進

医療機能の分化・地域完結型医療への移行により、今後様々な場面で多様な連携が不可欠である。特に、かかりつけ薬剤師・薬局等との連携は重要であることから、その推進および具体化を図る。

- (1) 医薬品の適正使用に必要な医療情報等を、医療機関、介護保険施設、地域包括支援センター等に対し、より速やかに伝達する方法について検討する。
- (2) かかりつけ薬剤師・薬局等、特に、入退院時や在宅医療に他医療提供施設と連携して対応できる薬局（地域連携薬局）、がん等の専門的な薬学管理に他医療

提供施設と連携して対応できる薬局（専門医療機関連携薬局）と病院との連携体制を構築する。

- (3) 地域薬剤師会、医師会等、他団体との連携を図る。
- (4) 電子処方箋、電子お薬手帳等デジタル化された情報を利用して医療機関・薬局等との情報の共有活用を推進する。

4. 病院・診療所および介護保険施設等の薬剤師業務の実践 先進的な業務の実践例を提示し、研修会を実施する等、薬剤師に求められている多様な業務を推進する。

- (1) 病棟等における薬学的管理、薬物療法に関する説明、医師への処方提案等の処方支援及び糖尿病患者等における自己注射や自己血糖測定等の実技指導等を推進する。
- (2) 業務効率の改善に向けた取り組みを推進する。
- (3) タスク・シフト/シェアの様々な好事例を提示し、各医療機関の実状を考慮した業務の充実を図る。
- (4) プロトコールに基づく薬物治療管理（Protocol Based Pharmacotherapy Management：PBPm）の積極的な実施を推進する。
- (5) 周術期の薬学的管理の充実を図る。
- (6) 救急外来の薬学的管理の充実を図る。
- (7) 退院患者への薬剤管理指導の実施率の向上を図る。
- (8) 薬学的管理・指導を充実し、高齢者をはじめとし不適切な多剤投与を減らす等、薬剤師の責務として適正な薬物治療の実施を推進する。
- (9) 入院時における持参薬の確認および適切な評価の充実を図る。
- (10) 注射剤調剤業務、特に薬剤師による抗がん薬の無菌調製の完全実施を図る。
- (11) 後発医薬品・バイオ後続品の適正使用を推進する。
- (12) 医薬品等の包装等へのバーコード等の表示に対する対応を推進する。
- (13) 夜間・休日における業務体制の確立を図る。
- (14) 薬剤耐性（AMR）対策も含めた感染対策への積極的な参加を推進する。
- (15) 放射性医薬品の管理、調製への積極的な参加を推進する。

5. 日本病院薬剤師会の組織体制の強化

地域偏在への対応や会員へのサービスの向上のため、現状を評価し検討を行う。

- (1) 第8次医療計画に基づき地域偏在の解消に向けて、病院薬剤師の人員不足に対する対策を厚生労働省、病院団体等と連携して対応する。
- (2) 地域医療介護総合確保基金を活用した病院薬剤師確保策を作成する。
- (3) 病院薬剤師増加・会員増加のため、都道府県病院薬剤師会の活動を支援すると共に連携を強化する。
- (4) 病院薬剤師の待遇改善に向けた対応を推進する。

- (5) 病院薬剤師等の多様な働き方を検討し、充実を図る。
- (6) 薬剤師確保、離職防止対策の好事例を収集し、会員に共有する。
- (7) 健全な財政基盤を堅持すると共に、中長期的な財政状況の把握と見通しについて検討する。
- (8) 会員不在の医療機関、介護保険施設に入会を働きかけ、会員の増加を図る。
- (9) 日本病院薬剤師会の運営にあたり、次世代を担う人材の発掘と育成を行う。
- (10) 拡大する薬剤師業務に対応した日病薬の組織、事務局体制の強化と運営の改善を図る。
- (11) 会員管理システムの稼働による都道府県病薬の要望に対応する管理体制を整える。
- (12) 特定募集情報等提供事業者として求人・求職者に情報を提供し、病院薬剤師確保に努める。
- 6. 薬剤部門の現状調査の実施および今後の業務展開の方向性の検討**
薬剤部門の現状を把握し、薬剤師の職能を広く広報するための基礎データとして、また、将来の方向性を検討するため定期的に業務調査を行う。
- (1) 薬剤部門に関する調査を行い、病院・診療所等における薬剤師業務の現状把握・分析・評価を行う。
- (2) 薬剤師の今後の業務展開の方向性、将来ビジョンを検討する。
- (3) 薬剤師以外の者の業務に関する指導、教育体制について検討する。
- (4) 調査結果をもとに、薬剤師業務のエビデンスを構築するとともに、令和8年度診療報酬改定に向けて、要望事項を検討する。
- (5) 本調査の回収率を上げるための方策を講じる。

3

- 7. 災害への対策・対応**
災害発生時に適切に対応できる支援体制を構築する。

- (1) 災害対策に関する規程および手引きを継続的に改定し整備する。
- (2) 都道府県病院薬剤師会・関連団体との連携を強化する。
- (3) 人材育成を目標としたプログラムを作成し、研修会を開催する。

- 8. 社会への広報活動の推進**
広報活動を充実して薬剤師の一層の見える化を図る。

- (1) 国民に薬剤師の活動・職能が理解されるように広報活動を行う。
- (2) 施設紹介のホームページを充実させ、薬学生や未就労者に向けた広報活動を積極的に行い、薬剤師の地域偏在の解消を図る。
- (3) 都道府県病院薬剤師会が開催するお薬相談会等を支援する。

9. 臨床研究の推進

薬剤師業務の質の向上等の科学的な基盤を得るため臨床研究を奨励・推進する。

- (1) 薬剤師の業務改革・評価に繋がる臨床研究の実施を奨励・推進し、エビデンスを収集する。
- (2) 上記に関わる研究課題を公募し、成果の発表並びに論文を推進する。
- (3) 会員の各種学会への積極的な参加と発表を奨励・推進する。

10. 生涯研修制度、研修事業の実施

生涯研修は、薬の専門職である薬剤師の責務の一つであり、また、今後の薬剤師キャリアパスを見据え、卒後教育・研修を含めた薬剤師の資質向上を支援する制度の構築および研修事業を実施する。

- (1) 日病薬病院薬学認定薬剤師制度の運用と実施体制の強化に取り組む。
- (2) 質の高い各種研修会・セミナー等を開催する。
- (3) e-ラーニングシステムを活用した生涯研修を推進し、地域差の解消に努める。
- (4) Web を利用した研修会の実施を推進する。
- (5) 新人研修会を行う。
- (6) 卒後教育・研修の充実を図るための検討を行う。
- (7) 日本薬学会、日本医療薬学会、日本薬剤師会等の学会・関連団体並びに薬学部・薬科大学との連携を強化する。

- 11. 認定薬剤師・専門薬剤師の認定事業の実施**
医療の高度化・多様化に対応できる専門性の高い薬剤師を育成する。

- (1) 専門薬剤師および認定薬剤師養成のための研修事業を実施する。
- (2) がん薬物療法専門薬剤師、感染制御専門薬剤師、精神科専門薬剤師、妊婦・授乳婦専門薬剤師およびHIV感染症専門薬剤師の認定を行う。
- (3) がん薬物療法認定薬剤師、感染制御認定薬剤師、精神科薬物療法認定薬剤師、妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師およびHIV感染症薬物療法認定薬剤師の認定を行う。
- (4) Web を利用した研修会の実施を推進する。
- (5) 医療で求められる薬剤師の新たな専門領域について検討を進める。
- (6) 専門薬剤師の制度設計のあり方について、他団体や学会との協議を含め検討を行う。

- 12. 薬剤師養成のための薬学教育への協力**
大学と協力し資質の高い後進の育成を図る。

- (1) 改訂薬学教育モデル・コア・カリキュラムに則った均質で質の高い実務実習

ができるよう、多施設実習等の体制の強化を図る。

(2) 地域医療や様々な機能の医療機関を理解するために、ふるさと実習及びグループ実習を推進する。

(3) 日病薬認定指導薬剤師の認定を行う。

1 3. 会員への情報提供および啓発事業の充実

様々な情報を会員に速やかに提供する。また、その方法について検討する。

(1) 正確で質の高い情報をホームページに掲載する等、会員に必要な情報伝達について効率的な運用に取り組む。

(2) 日病薬誌の内容の充実と読みやすくなるための工夫を図る。

(3) 日病薬誌の電子媒体での公開について検討・実施する。

(4) 業務等に有用な出版物の発行を推進する。

(5) 日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum を開催し、日病薬の事業内容等について会員に情報提供を行う。

1 4. 国際交流事業の強化

諸外国の薬剤師を巡る環境を理解し情報を共有するため、グローバル化を奨励・推進する。

(1) 国際薬剤師・薬学連合 (International Pharmaceutical Federation: FIP) の組織運営に関わるとともに、世界の薬剤師・薬学関連組織と情報共有を図る。

また、諸外国の薬剤師や関連団体との交流を推進する。

(2) 米国病院薬剤師会 (American Society of Health-System Pharmacists: ASHP) 主催学会における会員の研究成果発表を支援し、海外研修派遣事業あるいは国際協力事業への研修協力を行う。

(3) FIP、ASHP 及び FAPA 等が開催する国際的学術大会の情報を会員に周知し、積極的な参加を奨励する。

(4) 連携協定を締結した韓国、タイ王国との学術交流のための意見交換を行う。

1 5. その他

(1) 日病薬賠償責任保険制度を運用する。

日病薬創立 70 周年記念のロゴマーク

日病薬創立 70 周年記念のロゴマークを作成いたしました。
広くご活用いただけますと幸いです。



特定募集情報等提供事業に基づく 「日本病院薬剤師会 求人・求職システム」 をスタートしました

日本病院薬剤師会では、病院・診療所を対象とした求人・求職システムを立ち上げました。求人情報が掲載されている全国の病院・診療所の検索が可能であり、**職場環境・募集条件**も細かく設定していますので、さまざまな働き方を希望し該当の医療機関を見つける場合に適したサイトとなっております。

なお、本システムの登録・利用は無料です。
また、お仕事を探している方が本システムに登録することで、求人情報が掲載されている**全国の病院・診療所**から直接、連絡を受けることも可能となっております。
是非、本システムを活用いただきますようよろしくお願いいたします。

「日本病院薬剤師会 求人・求職システム」

<https://www.jshp-job.jp/>



お仕事を探している方の
登録はこちら

病院、診療所等に勤務する薬剤師のための求人・求職サイト

日本病院薬剤師会は、病院や診療所などの医療機関に勤務する薬剤師の職能団体です。全国の**47都道府県**にもそれぞれ病院薬剤師会があり、その都道府県の病院薬剤師会の会員で構成されており、会員数約**48,000名**です。

求人・求職システム アンケート調査結果

調査期間：令和6年12月25日（水）～令和7年1月31日（金）
調査対象施設：令和6年4月1日以降、求人情報を掲載したことがある施設 369施設
調査結果：

回答施設数	206施設
回答率	55.6%

1. 求人情報を掲載後、求人情報について、電話・メール（システム外含む）等でお問い合わせがありましたか。

	施設数	%
あり	24	11.7
なし	182	88.8

2. 書類選考・採用試験・面接は行いましたか。

1. の設問で「あり」を選択した24施設

	施設数	%
行った	13	54.2
行わなかった	10	41.7
未回答	1	4.2

3. 職員を採用することになりましたか。（内定含む）

2. の設問で「行った」を選択した13施設

	施設数	%
採用になった	6	46.2
採用とならなかった	7	53.8

薬剤業務向上加算の算定施設(17施設)		令和6年11月現在
宮城県	東北大学病院	
	千葉メディカルセンター	
千葉県	千葉大学医学部附属病院	
	医療法人鉄蕉会亀田総合病院	
神奈川県	昭和大学藤が丘病院	
東京都	日本医科大学付属病院	
	昭和大学病院	
石川県	金沢医科大学病院	
	金沢大学附属病院	
静岡県	聖隷浜松病院	
愛知県	藤田医科大学病院	
大阪府	大阪赤十字病院	
	大阪医科薬科大学病院	
岡山県	倉敷中央病院	
広島県	広島大学病院	
山口県	山口大学医学部附属病院	
長崎県	長崎大学病院	

薬剤業務向上加算 令和6年度診療報酬改定特別調査より

(1) 病棟薬剤業務実施加算の薬剤業務向上加算(週1回 100点) について、該当するもの1つにチェックをつけて下さい。

1	特定機能病院である	75
2	急性期充実体制加算1	183
3	急性期充実体制加算2	32
4	対象病院ではない	2019

令和8年度診療報酬改定要望事項（たたき台）

● 重点要望事項

1. 医療従事者の処遇改善(評価)

令和6年度診療報酬改定では、入院ベースアスアップ評価料、外来・在宅ベースアスアップ評価料（Ⅰ）（Ⅱ）等新設されたが、令和8年度診療報酬改定においても同様に、医療従事者の処遇改善の評価を要望する。

2. 転院、転所時の薬剤関連情報の連携に関する評価（新設）

急性期病院から回復期病院への転院、または回復期病院から施設入所の際、その病院・老健等の医療従事者に向けて、ポリファーマシー対策の実施状況を含め入院中の薬剤関連情報を、薬剤管理サマリーなどを用いて提供した場合に退院時薬剤情報管理指導料と同様の加算が算定できるよう要望する。

3. 病棟薬剤業務実施加算（既存の要件緩和）

- ・各病棟において病棟薬剤業務実施加算に定める病棟薬剤業務（ア〜ケ）を全て実施した場合に、1週間20時間相当以上の業務時間を満たさない病棟があっても、各病棟の病床数や薬剤業務内容等を考慮し、各病棟を平均して薬剤業務時間が20時間以上となっていれば、病棟薬剤業務実施加算の要件を満たす等の柔軟な運用を要望する。
- ・病棟薬剤業務実施加算1及び2を算定することができない回復期リハビリテーション病棟入院料等についても算定対象とするよう要望する。

4. 保険薬局との入院時の連携に関する評価（新設）

患者が入院することになった場合に、保険薬局へ当該患者が入院することを伝え、服薬状況等の情報の提供を求め、その情報等を活用し、患者のアドヒアランスを含め、正確な服薬情報を把握し、入院後の薬学的管理につなげた場合の評価を要望する。

5. 救急外来における薬剤業務の評価（新設）

救命救急センターまたは救急外来を受診した患者を対象に薬剤師が来院時より、患者の服用歴等の情報収集や薬学的管理、医師等の負担軽減に資する業務を実施した場合の評価を要望する。

6. 医薬品の安定確保対策への評価

- ・後発医薬品のみならず、新薬を含め情報を収集・評価し、医薬品の供給不安に対応するため の代替薬への切り替えや医療機関内への周知等に努めた場合、後発医薬品使用体制加算の増点を要望する。また、各都道府県等の定める後発医薬品使用促進計画に協力することを、努力義務とする。
- ・一部の供給停止品目と同一成分・同一投与形態の医薬品について、令和6年9月24日付事務連絡「後発医薬品の出荷停止等を踏まえた診療報酬上の臨時的な取扱いについて」の通り、後発医薬品使用体制加算等における実績要件である後発医薬品の使用（調剤）割合を算出す

る際に、算出対象から除外しても差し支えないものとする取扱いが継続することを要望する。

○一般要望事項

1. バイオ医薬品の適正使用・使用促進に関する評価(新設、既存の要件緩和)
入院中のバイオ医薬品を使用している患者が初めて同効のバイオ後続品に切り替えを行う場合、患者に対してバイオ後続品の有効性や安全性について十分な説明を行い、副作用モニタリング等を行うことで継続的な医薬品使用を支援した場合、対象薬剤を限定し評価を要望する。
2. 周術期薬剤管理加算(既存の算定対象拡大)
全身麻酔以外の区域、自家麻酔等についても、周術期薬剤管理を行った場合、評価するよう要望する。
3. 外来腫瘍化学療法診療料(既存の算定対象拡大)
投与経路に、皮内注射、皮下注射、筋肉内注射の追加を要望する。
4. 無菌製剤処理料(既存の要件緩和、既存の算定対象拡大)
 - ・施設要件の「2名以上の常勤の薬剤師がいること」を、薬剤管理指導料の要件同様に、非常勤の薬剤師を常勤換算し、常勤薬剤師数に算入することができるよう要望する。
 - ・無菌製剤処理 1 の投与方法に、膀胱内投与の追加を要望する。
 - ・植込型カテーテルによる中心静脈注射で抗がん剤が投与される患者の明記を要望する。
 - ・無菌製剤処理料 2 に、バイオ医薬品(生物学的製剤)のうち、医薬品添付文書の 14.1 薬剤調製時の注意に「本剤の調製は無菌的操作で行うこと」と明記されている医薬品(ベドリズマブ、リサンキズマブ、セルリポナーゼ アルファ、イデュルスルファーズ ベータなど)の追加を要望する。
 - ・外来患者に対して医療機関の薬剤師が麻薬の無菌調製を行う場合、調剤報酬の麻薬の無菌製剤処理加算と同様に、無菌製剤処理料 2 に麻薬注射薬の項を追加することを要望する。

5. 退院後在宅移行初期管理料(新設)
退院直後など、計画的に実施する訪問薬剤管理指導の前の段階で、今後の訪問薬剤管理指導を担当する薬剤師と患者を訪問し、入院中の処方内容に関する情報や、患者の退院に際して実施された指導の内容などに関する情報提供し、在宅療養を行う多職種と連携して今後の訪問薬剤管理指導のための服薬状況の確認や薬剤の管理等の必要な指導等を実施した場合、調剤報酬として「在宅移行初期管理料」と同様に病院薬剤師の評価を要望する。

6. 医療 DX に対応する体制の確保(評価の継続)
医療 DX 推進体制整備加算等、オンライン資格確認により取得した診療情報・薬剤情報を診療に活用可能な体制を整備し、電子処方箋及び電子カルテ情報共有サービスを導入し、医療 DX に対応する体制を確保している場合の評価が継続することを要望する。

7. 薬剤総合評価調整加算の薬剤調整加算(既存の要件緩和)

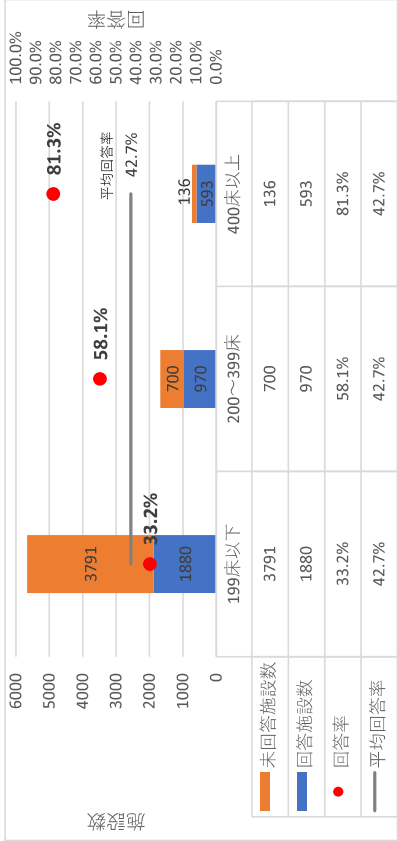
薬剤調整加算は「クロルプロマジン換算で 2,000mg 以上内服していたものについて、クロルプロマジン換算 1,000mg 以上減少した場合を含めることができる。」とあるが、初期設定のクロルプロマジン換算値 2,000mg 及び、減少量としている 1000mg について、現在の精神科薬の使用実態にあわせて見直すことを要望する。

8. 薬剤師の外来業務(新設)
がん薬物療法体制充実加算と同様に、がん以外の領域にも拡大し、非がん領域の生物学的製剤による治療、精神疾患、てんかんの患者、臓器移植等の患者が、外来で採血の検査や注射剤での治療を使う患者を対象とした薬剤師による面談等、外来での業務の評価についても要望する。
9. 保険薬局との外来での連携に関する評価(新設)
保険薬局からの問い合わせへの対応や、保険薬局からトレーシングレポート等により提供される患者の服用薬や服用状況、副作用に関する情報等を、薬剤師が一元管理し、医師の負担軽減に務めた場合に評価することを要望する。

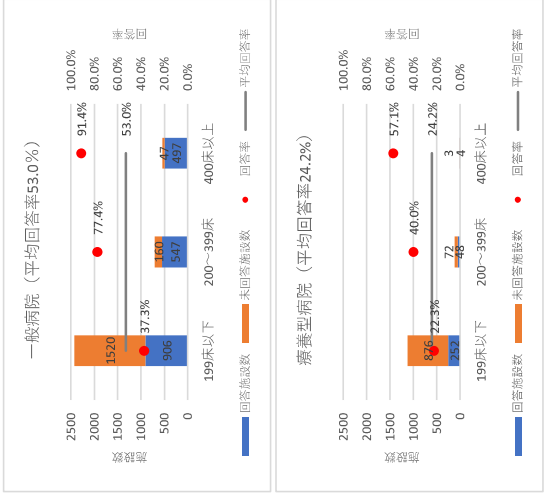
令和 6 年度 「病院薬剤部門の現状調査」 集計結果

- 調査目的：
 - 病院薬剤師業務の現状および経年変動、病院における薬剤師の病棟配置の実態把握にかかわる項目について調査する。
- 調査期間：令和 6 年 6 月
 - 調査対象施設：
 - 8,070 施設（200 床以上を有する医療機関）
 - 会員施設（本会会員の所屬がある施設） 6,194 施設
 - 非会員施設（本会会員の所屬がない施設） 1,876 施設
 - 回答施設：3,443 施設（回答率 42.7%）
 - 会員施設 3,212 施設（回答率 51.9%）
 - 非会員施設 231 施設（回答率 12.3%）

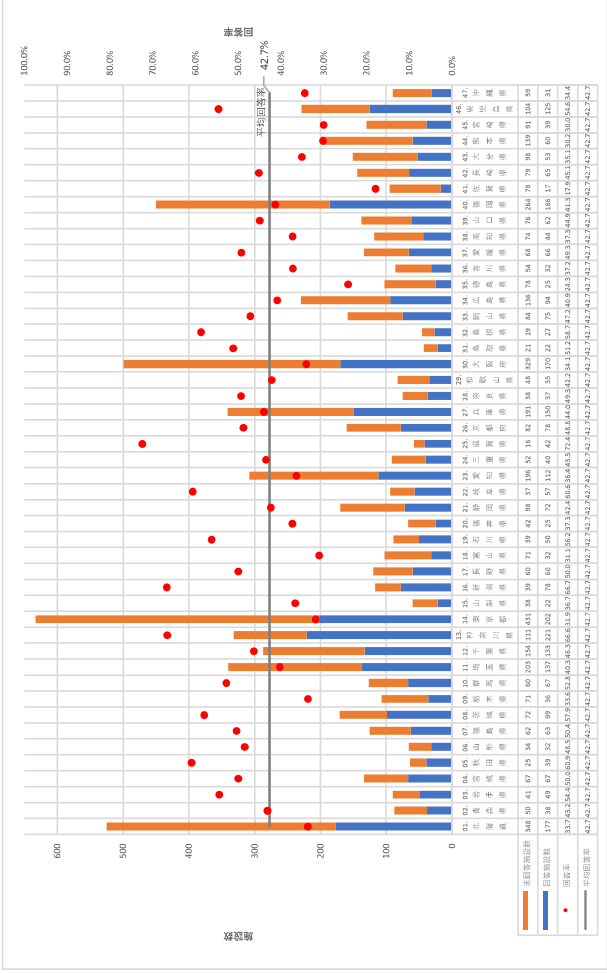
令和 6 年度 病床数別回答率



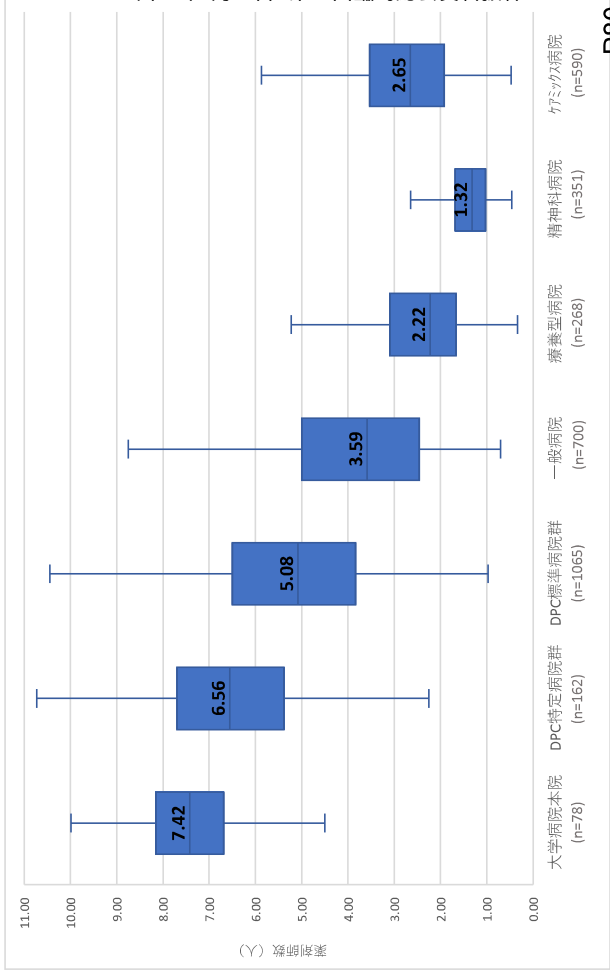
令和 6 年度 病床種別回答率

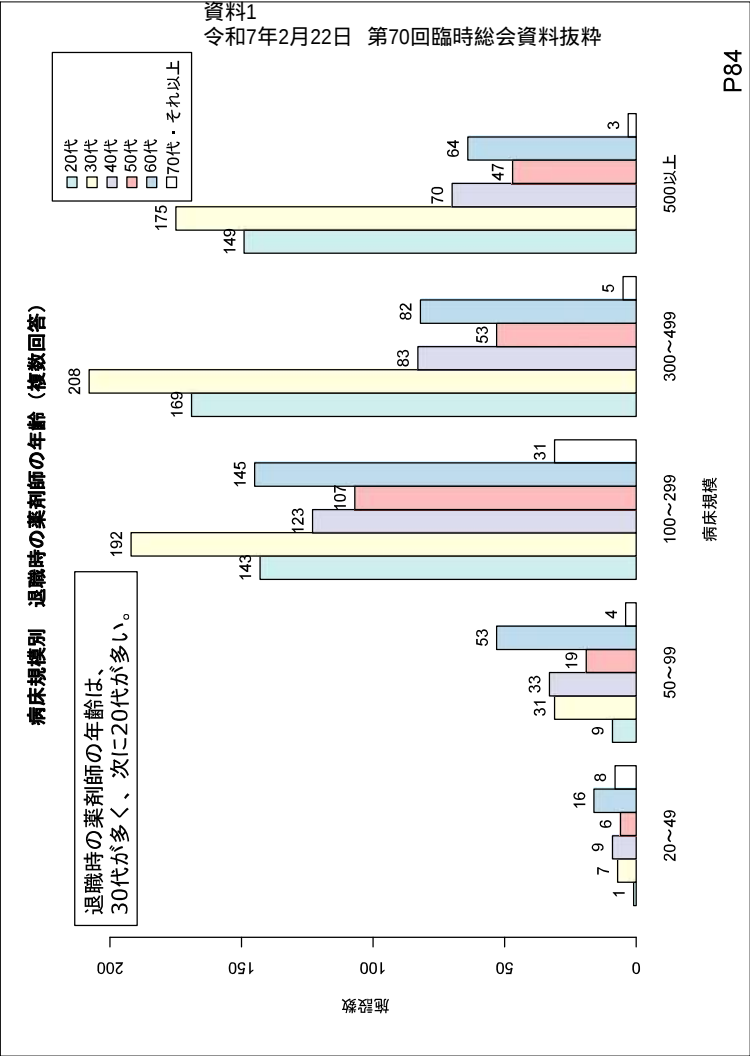
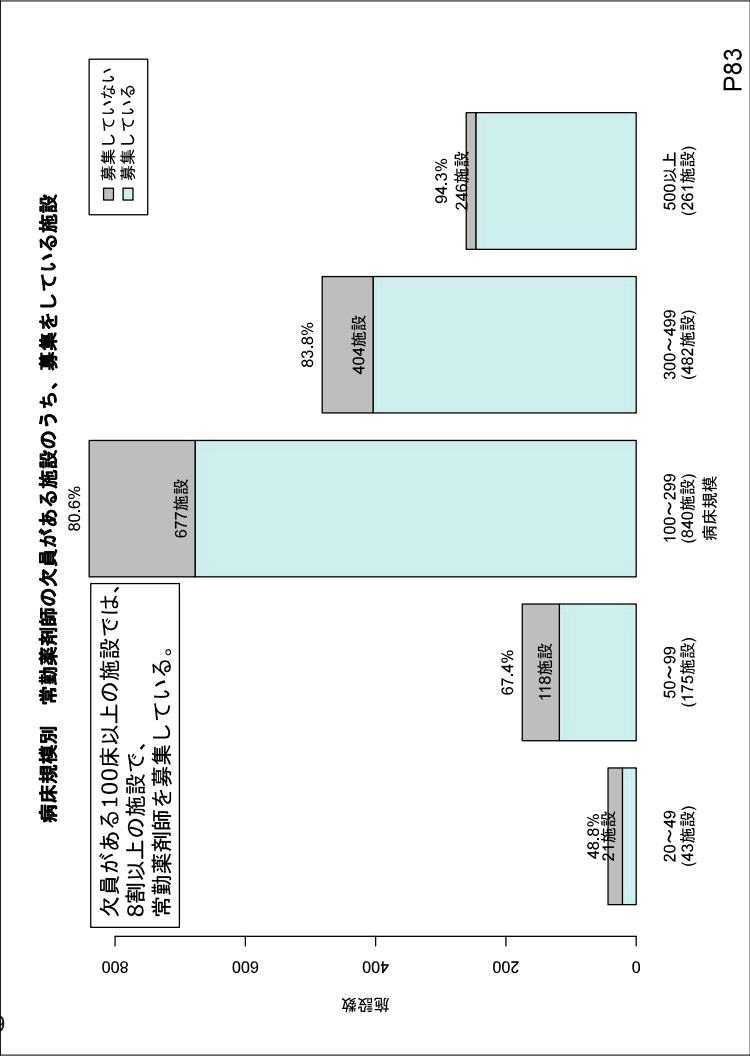
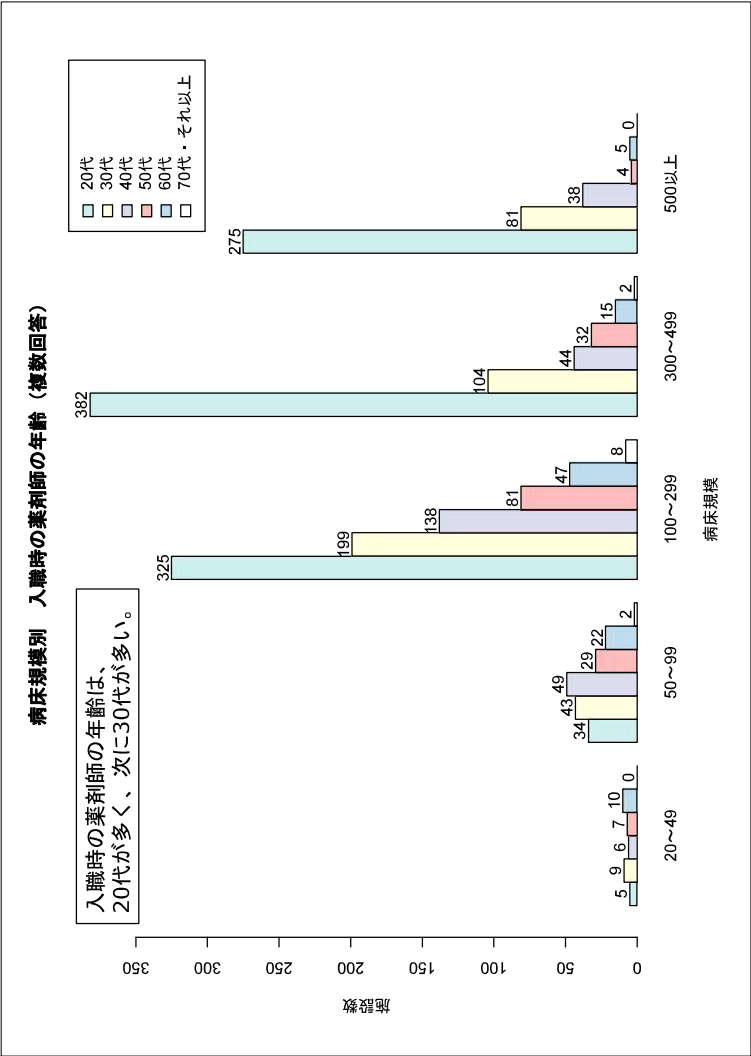
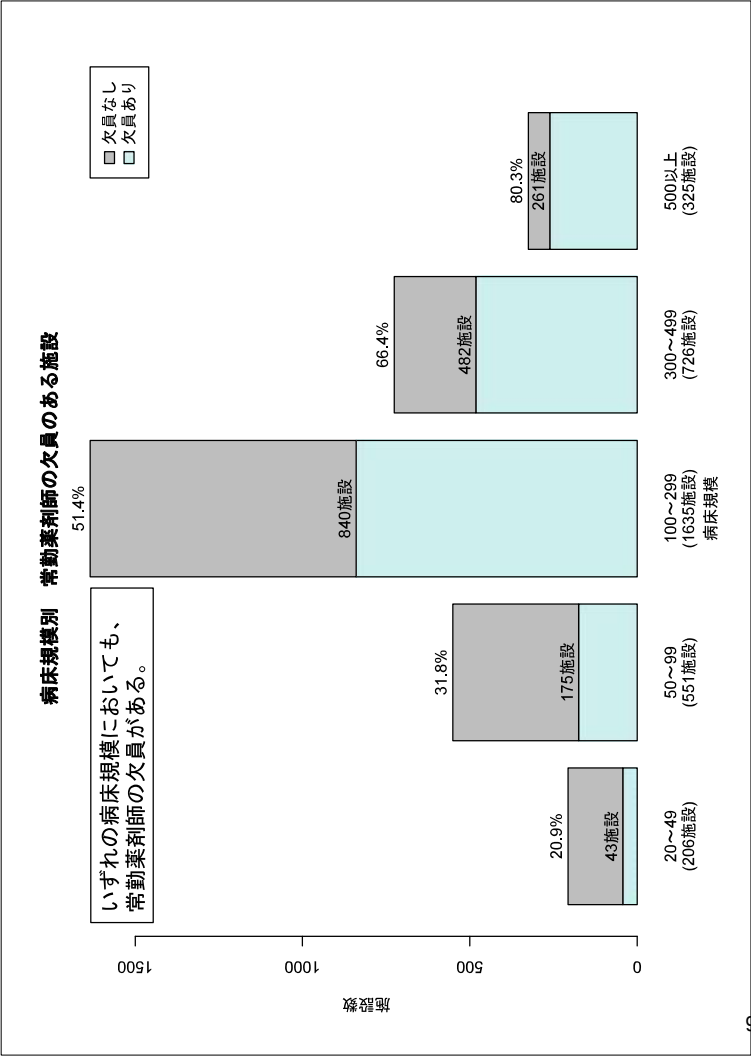


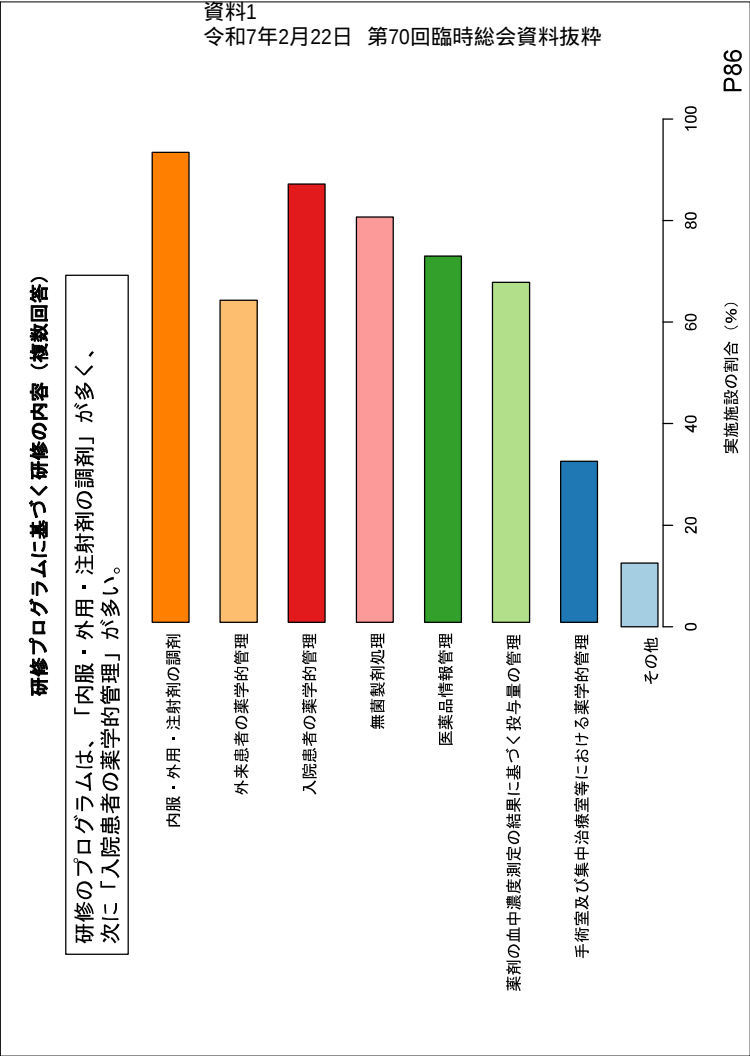
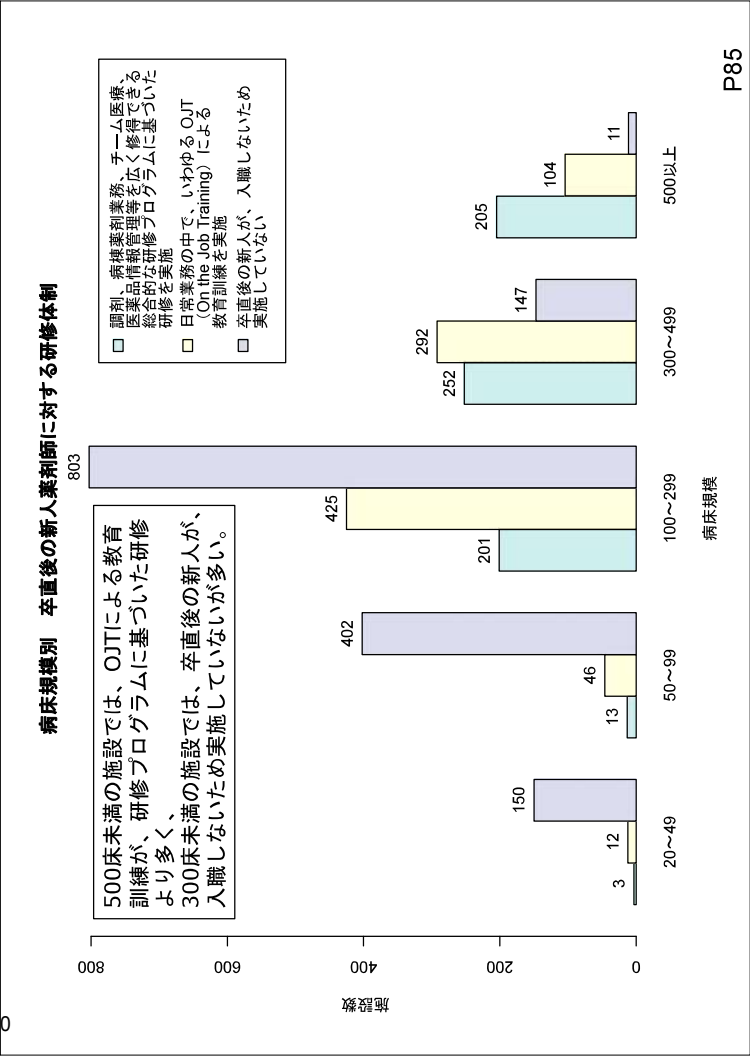
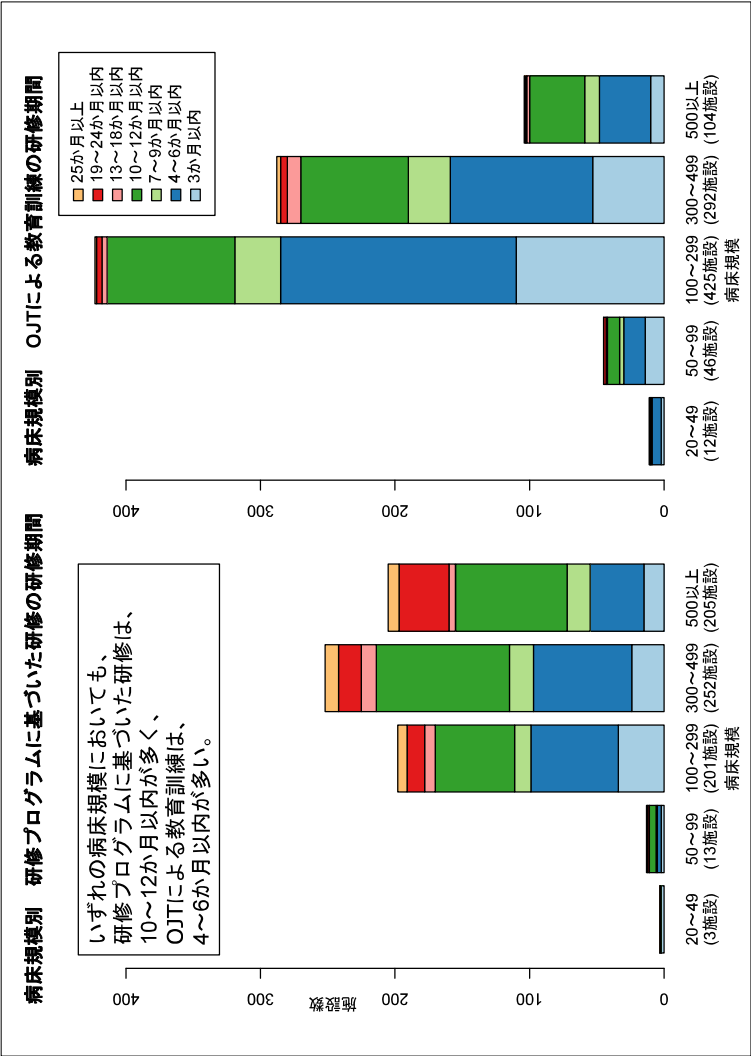
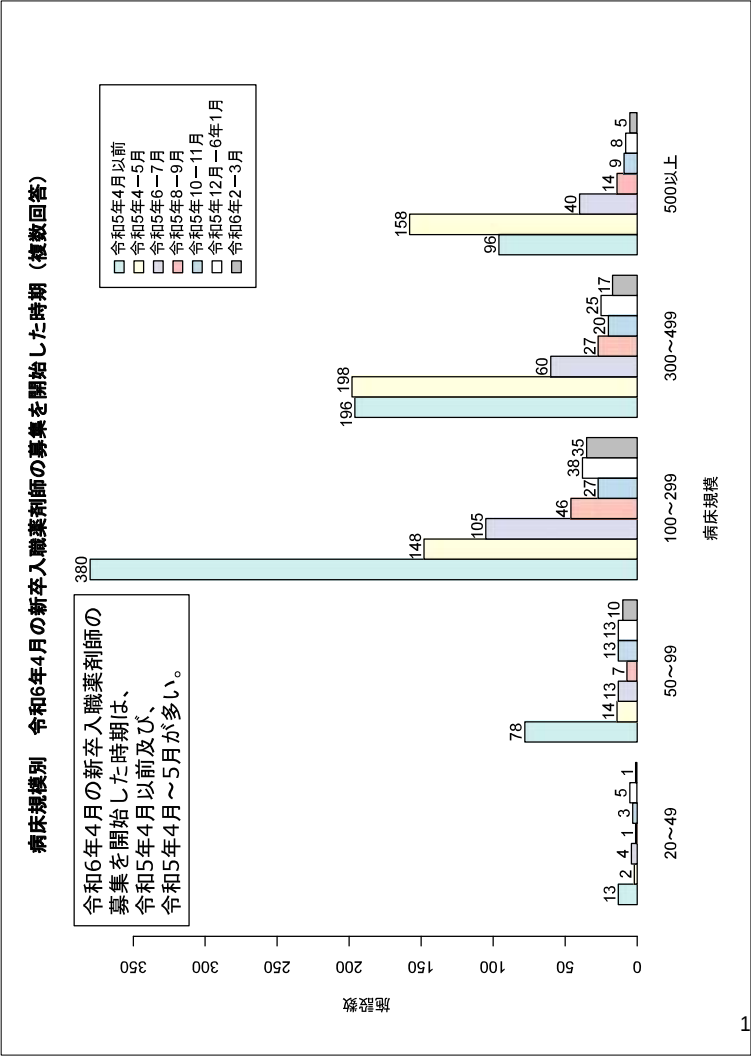
令和 6 年度 都道府県別回答数



令和 6 年度 100床あたりの薬剤師数







第8回 日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum

編集委員会

日病薬誌の電子版発行について

日病薬誌は電子書籍アーカイブの形式で令和8年1月より電子版の発行も開始することを決定しております。紙媒体に関しては原則発行しない方向へ進める方針ですが、紙媒体の廃止時期については、今後調査を行い、結果に基づき検討する予定です。

(参考:電子書籍アーカイブ画面)



1. 電子版への移行に関する調査の実施について
電子版への移行に関して、会員の先生方へご意見を伺いたく、アンケート調査を行います。調査時期は、令和7年度初旬頃です。アンケートフォームは本会ホームページや日病薬誌「重要なお知らせ」へ掲載予定としております。ご協力をお願い申し上げます。
2. 発行形式の切り替え時期
令和7年12月までは現状のとおり紙媒体を発行し、令和8年1月より、電子版での閲覧を可能とします。

以上

- 開催目的**
- 最新 TOPICS の周知と相互理解
 - 現在及び将来の医療環境で求められる薬剤師業務の提案
 - 薬剤師の資質向上と次世代を担う人材の育成

医薬品を巡る今後の課題

松本 吉郎 公益社団法人日本医師会 会長

薬剤師による薬物治療管理のさらなる充実に向けて

奥田 真弘 一般社団法人日本病院薬剤師会 副会長



Web開催
オンデマンド配信

参加費
早期料金 **¥5,000** (税込) 申込 期間 2025.4/14 (月)10時~6/27 (金)18時まで
通常料金 **¥6,000** (税込) 申込 期間 2025.6/28 (土)10時~8/4 (月)18時まで

2025.7/12(土)▶8/11(月・祝)
<https://www.jshp-fp8th.com/>

大会長: 武田 泰生 (一般社団法人日本病院薬剤師会 会長)
実行委員長: 奥田 真弘 (一般社団法人日本病院薬剤師会 副会長)

参加資格 日本病院薬剤師会会員、賛助会員(1口あたり1名)、薬学生 ※賛助会員(1口あたり1名)、薬学生は無料

プログラム
●特別講演:2講演
●シンポジウム:28枠(予定)
日病薬病歴薬学認定薬剤師・日病薬専門
薬剤師制度の認定単位が取得できます。
詳細はホームページをご確認ください。

主催 一般社団法人 日本病院薬剤師会

【大会事務局】 一般社団法人日本病院薬剤師会 事務局 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15 日本薬学会 長井記念館8階

【運営事務局】 株式会社イイベントアンドコミュニケーションハウス

〒110-0024 東京都千代田区神田和泉町1-13 住友商事神田和泉町ビル14F E-Mail: jshp-fp8th@echo.jp TEL: 03-6863-2504



イベントスペース

資料1
令和7年2月22日 第70回臨時総会資料抜粋

【人財確保WG】

WG会議1回（①6月26日5名）

1. 「病院ふれあいフェスタ2024」

日時：11月23日（土・祝）11：00～16：30 会場：ニプロ株式会社 本社（大阪府摂津市）

案内：プラスエイチ共催によるHPから参加募集、79大学へ郵送

プログラム：オープニング（京都府知事挨拶）・機能別病院の紹介・各施設紹介動画投影・
昭和大学 早瀬 久美 先生ビデオ講演・グループセッション 等

参加 30法人・参加学生 103名（15大学）

イベント後、「病院ふれあいフェスタ2024」参加施設紹介動画・イベント動画をHPへ掲載

2. 病院就活準備応援Webセミナーin京都 WEB開催（3回）

① 日時：9月6日（金）19：00～20：00 WEB開催

講演1「急性期病院で働く新人薬剤師」

講師 医療法人洛和会洛和会丸太町病院薬剤部 藤塚 万椰 先生

講演2「小児科領域で活躍する中堅薬剤師」

講師 京都市立病院 薬剤部 楠川 侑吾 先生

講演3「採用にかかわる管理職薬剤師」

講師 京都府立医科大学附属北部医療センター 薬剤部 土淵 尚也 先生

対象：薬学生 参加者67名（学生54名・薬剤師他13名）

② 日時：12月6日（金）19：00～20：00 WEB開催

講演1「急性期・高度急性期病院で働く新人薬剤師」

講師 畠山陽平先生（京都第一赤十字病院薬剤部）

講演2「外来がん領域で活躍する中堅薬剤師」

講師 京都第二赤十字病院 薬剤部 野口 裕介 先生

講演3「採用にかかわる管理職薬剤師」

講師 舞鶴共済病院 薬剤部 竹田 和也 先生

対象：薬学生 参加者42名（学生29名・薬剤師10名）

③ 日時：3月7日（金）19：00～20：00 WEB開催

講演1「急性期病院で働く新人薬剤師」

講師 京都桂病院 薬剤部 藤井 貴之 先生

講演2「産婦人科領域で活躍する中堅薬剤師」

講師 洛和会音羽病院 薬剤部 弓木 栞里 先生

講演3「採用にかかわる管理職薬剤師」

講師 京丹後市立久美浜病院 薬剤部 和田 昭 先生

対象：薬学生 参加者25名（学生15名・薬剤師他10名）

3. 「病院ふれあいspecial week」（2回）

病院集中見学会を実施し、学生会員等へ案内

第1回 8月5日～8月18日の期間で開催 30施設エントリー

第2回 11月4日～11月17日の期間で開催 26施設エントリー

【領域別支援WG】

WG会議1回（3月17日 22名）

1. 領域別カンファレンス研修会

日時：11月8日（金）18：45～20：50 ハイブリッド開催
（現地会場：TKPガーデンシティ京都タワーホテル）

講演1「糖尿病領域 より良い指導や処方提案に繋げるため」

講師：京都第二赤十字病院 薬剤部 瀬下 貴大 先生

講演2「循環器領域における処方提案に繋げる次なる一手
～ GDMTと薬薬連携への関わりを通して～」

講師：洛和会東寺南病院 薬剤部 大森 清孝 先生

特別講演「薬剤師の役割と未来

～ 処方提案を円滑にするための工夫と教育 ～」

講師：岐阜大学医部附属病院 薬剤部 治験管理主任 兼

先端医療・臨床研究推進センター 治験管理部門 副部門長 石原 正志 先生

参加者 84名

2. 領域別カンファレンス

領域別カンファレンス 新規登録（5領域まで）募集

領域別カンファレンス登録者 294名（64施設） 25領域延べ786名〔令和7年3月31日現在〕

25領域別カンファレンス 延べ56回開催 企業協賛勉強会等 12回開催

3. 事業活動広報

①病院就活準備応援Webセミナーにおける薬学生向け広報（令和6年9月6日、12月6日、令和7年3月7日）

②薬学生向け雑誌「薬働」での取材対応（令和6年11月発刊）

③第46回日本病院薬剤師会近畿学術大会（令和7年1月25日）

④第2回薬剤師力向上講座における講師派遣（令和7年2月24日）

⑤日経DI「より抜きDIアップデート」連載開始（令和5年4月～）

⑥月刊薬事連載開始（令和5年11月～）

領域別カンファレンス	登録者数
1. 消化器	29
2. 循環器	55
3. 呼吸器	14
4. 糖尿病	44
5. 造血器	17
6. 免疫・アレルギー	14
7. 脳神経	21
8. 産婦人科	17
9. 整形外科	21
10. 腎・透析	45
11. 精神科	16
12. 小児医療	23
13. 高齢者医療	37
14. 周術期医療	36
15. 集中治療	33
16. 緩和ケア	45
17. 外来がん治療	52
18. 医薬品情報	45
19. 医療安全	25
20. 感染制御	60
21. NST	38
22. 救命救急	29
23. 災害医療	27
24. 医療情報	26
25. 在宅医療	17
総合計	786

【会員交流WG】

WG会議3回（①4月9日 10名 ②7月20日 8名 ③3月10日 7名）

1. 令和6年度 新任薬剤師研修会

日時：7月20日（土）14:00-16:25

場所：京都府薬剤師会館 2階 ホール

講演1「特定機能・地域支援型病院 薬剤師の立場から」

講師 京都第二赤十字病院 瀬下 貴大 先生

講演2「地域連携型病院 薬剤師の立場から」

講師 京都府立医科大学附属病院 竹内 隆馬 先生

講師 日本バプテスト病院 岩田 あすか 先生

講演3 職業倫理「次世代に期待すること」

講師 病院診療所薬剤師部会 部会長 四方 敬介 先生

参加者数 54名（ファシリテーター含む）

2. 京都薬用植物園見学会

日時：10月19日（土）13:00-14:30

場所：武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園

参加者数 10名

【管理職等交流WG】

1. 病診部会総会

日時：5月19日（日）14：00～16：30 会場：京都府薬剤師会館 2階 ホール

参加者49名・委任状984名（正会員1,161名）

次第 1. 報告事項（令和5年度事業報告・令和6年度事業計画・日本病院薬剤師会 第68回 臨時総会
・医療政策部セミナー報告 他）

2. 京病薬受賞者披露【功労賞・優秀学術論文賞・学術奨励賞・病院薬学賞】

2. 管理職等交流会

第24回 管理職等交流会

日時：11月10日（日）13：30～17：00 会場：京都府薬剤師会館 2階 ホール

次第 1. 特別講演「薬剤師のプロフェッショナリズムを考える」

講師 慶應義塾大学薬学部 医療薬学・社会連携センター
医療薬学部門 教授 鈴木 小夜 先生

2. 意見交換・グループディスカッション（施設毎の近況報告等）

参加者33名

3. 日病薬 薬剤部門現状調査

令和6年度 提出（会員施設） 75施設 提出率 54%

【表彰WG】

I 京病薬 令和6年度 表彰募集

1月施設便にて表彰者の推薦を募集

(功労賞・優秀学術論文賞・学術奨励賞・病院薬学賞 他)

表彰審査 表彰WGの審査を評議員会にて承認

II 令和6年度 受賞者

1 功労賞 1名

村岡 淳二 先生 医療法人社団石鎚会 京都田辺中央病院 薬剤部

2 優秀学術論文賞 2名

① 小林 佳代 先生 社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院 薬剤科

表題 「デュロキセチン投与後に抗利尿ホルモン不適合分泌症候群をきたした慢性腰痛症の1例」
医療薬学 2024年4月10日

② 三好 由希子 先生 京都大学医学部附属病院 薬剤部

表題 「Efficacy of a melatonin receptor agonist and orexin receptor antagonists in preventing delirium symptoms in the elderly patients with stroke: a retrospective study」
Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 2024年11月18日

3 学術奨励賞 4名

① 貝阿彌 杏由 先生 医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院 薬剤部

表題 「GEM+nab-PTX療法における皮疹発現の実態調査」
第34回日本医療薬学会年会 (2024年11月2日～11月4日)

② 多賀野 正嗣 先生 国家公務員共済組合連合会 舞鶴共済病院 薬剤部

表題 「糖尿病のある児童生徒について学校薬剤師意識調査」
第2回京都府薬剤師会学術大会 (2024年9月4日)

③ 田中 由梨香 先生 京都府立医科大学附属病院 薬剤部

表題 「京都府内7施設におけるDASCを用いた大腸菌菌血症に対するAS活動の評価」
第39回日本環境感染学会総会・学術集会 (2024年7月25日～7月27日)

④ 吉村 光弘 先生 医療法人社団石鎚会 京都田辺中央病院 薬剤部

表題 「糖尿病治療におけるプレフィルド製剤保管方法の調査」
全日本病院学会 (2024年9月28日～9月29日)

4 病院薬学賞 1施設

① 医療法人財団康生会 武田病院

「門前薬局や地域薬剤師会と連携した心不全の関する薬薬連携への貢献」

① 【院内】心不全ワーキング勉強会

② 下京南薬剤師会定例勉強会

③ 薬剤師あゆみの会 指定セミナー在宅実践研修会

④ 第2回薬剤師力向上講座～ケースから学ぶ心不全のチェックポイント～

【調査研究WG】

WG会議 1回（7月2日 9名）

1. 「学会発表のための研修会」

日時：1月11日（土）17：00～18：30 WEB開催

講演1 「研究・発表のすゝめ」

講師 京都中部総合医療センター 長谷川 晃司 先生

講演2 「学会発表を通じて得た経験」

講師 壬生こと薬局 今堀 翔太 先生

講演3 「はじめの一步を踏み出してみよう～失敗から学ぶ、でもいいんじゃない！？～」

講師 みやこ薬局 北山店 武山 裕美子 先生

講演4 「学校薬剤師としての発表をしてみて」

講師 フジタ薬局 高野店 藤田 洋司 先生

シンポジウム「学会発表をする上で感じた課題や発表を通じて得たもの」

パネリスト 今堀 翔太 先生・武山 裕美子 先生・藤田 洋司 先生

参加者 91名（病診49名・薬局41名・非会員1名）

2. 「病院薬剤師充足調査」の実施

1回実施（6月 64施設回答）

3. 学会発表支援 随時相談

相談件数：0 件

【情報通信WG】

1. 活動内容

- (1) 電子メールによる意見交換（随時）
- (2) 電子処方箋導入状況調査の実施

2. 京病薬ホームページの活用状況

- (1) アクセス数の分析

毎月のアクセス内容を継続的に収集し、ホームページの活用内容を検証

- (2) アクセス経路の分析

3. ホームページコンテンツの掲載

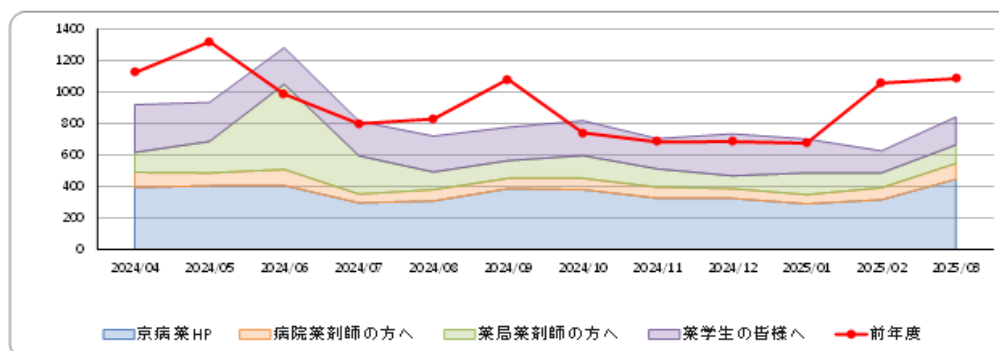
- ・学生会員募集バナーの掲載
- ・学会バナーの掲載

4. 総合評価

- (1) HPのコンテンツについては、様々な領域からの要望に対し柔軟に対応していく。

京病薬HPアクセス解析2024年度 推移

ページ	2024/04	2024/05	2024/06	2024/07	2024/08	2024/09	2024/10	2024/11	2024/12	2025/01	2025/02	2025/03	平均
京病薬HP	394	404	405	295	308	386	380	325	324	290	315	446	356
病院薬剤師の方へ	96	82	102	56	72	65	71	71	62	58	76	99	76
薬局薬剤師の方へ	125	200	543	242	112	113	145	116	81	137	94	118	169
薬学生の皆様へ	304	248	231	220	228	211	222	192	266	216	141	179	222
総計	919	934	1,281	813	720	775	818	704	733	701	626	842	822
前年度	1,122	1,318	987	799	828	1,080	740	682	685	675	1,056	1,084	921
前年差	-203	-384	294	14	-108	-305	78	22	48	26	-430	-242	-99



Topページアクセス	2024/04	2024/05	2024/06	2024/07	2024/08	2024/09	2024/10	2024/11	2024/12	2025/01	2025/02	2025/03	平均
desktop	779	893	681	672	570	606	647	629	469	548	521	646	638
mobile	336	280	291	185	211	291	229	196	210	238	196	342	250
tablet	22	11	14	10	8	14	8	11	5	6	6	14	11
desktop	69%	75%	69%	78%	72%	67%	73%	75%	69%	69%	72%	64%	71%
mobile	30%	24%	30%	21%	27%	32%	26%	23%	31%	30%	27%	34%	28%
tablet	2%	1%	1%	1%	1%	2%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%

アクセス元上位	2024/04	2024/05	2024/06	2024/07	2024/08	2024/09	2024/10	2024/11	2024/12	2025/01	2025/02	2025/03	平均
京都	469	572	385	388	355	374	387	344	285	345	292	424	385
大阪	145	157	140	127	83	101	81	103	70	68	71	119	105
滋賀	17	18	20	14	10	19	15	12	13	13	12	15	15
東京	271	231	243	197	223	255	259	245	204	260	227	283	242
他	212	174	179	125	109	149	123	118	102	99	109	142	137
京都	42%	50%	40%	46%	46%	42%	45%	42%	42%	44%	41%	43%	43%
大阪	13%	14%	14%	15%	11%	11%	9%	13%	10%	9%	10%	12%	12%
滋賀	2%	2%	2%	2%	1%	2%	2%	1%	2%	2%	2%	2%	2%
東京	24%	20%	25%	23%	29%	28%	30%	30%	30%	33%	32%	29%	28%
他	19%	15%	19%	15%	14%	17%	14%	14%	15%	13%	15%	14%	15%

【連携支援WG】

WG会議2回（①6月4日 13名、11月7日 11名）

1. 連携支援ツールの普及

- (1) 「連携ツールの強化書 9疾患から始める簡単フォローアップ術」の発行（じほう社）
5疾病（がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患）、30の症例における具体的な介入方法、フォローアップシートの作成例を紹介。
7種類のフォローアップシート（抗がん薬、鎮痛薬、心不全治療薬、血栓症治療薬、糖尿病治療薬、慢性腎臓病治療薬、精神神経用薬）を専用ウェブサイトからダウンロード可能。
- (2) 基幹病院におけるフォローアップ活用状況・有用性に関する調査
多機関共同研究実施中。
- (3) 新規フォローアップシートの作成
リウマチ関連治療薬、IPE治療薬の2種類を作成中

2. 研修会 2回開催「服薬フォローアップ連携支援セミナー」

第4回 日時 4月13日（土）18：00～19：30 WEB開催

講演1「病薬連携による医薬品適正使用の推進」

講師 京都府立医科大学附属病院 薬剤部 田渕 祐輔 先生

講演2「がん薬物療法に必要となる服薬フォローアップ」

講師 京都第二赤十字病院 薬剤部 加藤 良隆 先生

参加者129名（病診55名、薬局74名）

第5回 日時 10月19日（土）18：00～19：30 WEB開催

講演1「服薬フォローアップに活かすRMP」

講師 医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院 薬剤部 部長 三浦 誠 先生

講演2「脳卒中に対して必要となる服薬フォローアップ」

講師 バプテスト老人保健施設 東原 和美 先生

参加者239名（病診113名、薬局125名、非会員1名）

3. 入院時スクリーニングシートの普及

継続して普及していく。

4. クリニカルインディケータの作成・状況分析継続中

データ収集対象基幹病院9施設

京大・府立医大・第一日赤・第二日赤・京都市立・京都桂・音羽・中部総合・京都医療センター

5. 疑義照会・インシデント等報告先一覧の更新

2025年1月更新・ホームページへ掲載

【業務推進WG】

WG会議1回（12月19日 8名）

1. 第37回 臨床薬剤師業務シリーズ研修会 テーマ「不眠・ポリファーマシー」

日時：8月4日（日）10：00～12：00 WEB開催

講演1「薬剤師が話す日曜の朝スッキリ目覚められるための不眠・ポリファーマシーの話」

講師 大阪府済生会中津病院 薬剤部 部長 萱野 勇一郎 先生

講演2「医師から見た不眠・ポリファーマシーの現状とこれから進むべき方向性」

講師 精神科医（合同会社Work 代表社員） 岸 信之 先生

総合討論 萱野 勇一郎 先生／岸 信之 先生／業務推進WGメンバー

参加者 200名（病診104名、薬局96名）

2. 第38回 臨床薬剤師業務シリーズ研修会

テーマ「がん連携充実加算と保険薬局との連携/診察前問診の院内連携」

日時：3月29日（土）17：00～18：45 WEB開催

講演1「診察前問診の当院取り組みと薬局への連携」

講師 洛和会丸太町病院 薬剤部 大上 寛子 先生

講演2「薬剤師外来でつなぐがん薬物療法と多職種連携」

講師 淀川キリスト教病院 薬剤部 榎原 克也 先生

総合討論 大上 寛子 先生／榎原 克也 先生／業務推進WGメンバー

参加者118名（病診71名、薬局46名、非会員1名）

【精神療養中小WG】

WG会議4回（①4月15日 7名 ②10月3日 3名※ ③11月19日 3名※ ④3月6日 6名）

※コアメンバーのみ

1. 精神療養中小病診薬剤師のためのスキルアップセミナー

(1) 日時：6月16日（日）10：00～12：00 会場：府薬ホール

講演「外用薬の基剤特性を活かす外用薬治療」

講師 医療法人愛生館 小林記念病院 褥瘡ケアセンター長 古田 勝経 先生

実技「フルタメソッドに基づく薬剤師の実技指導」

講師 医療法人愛生館 小林記念病院 褥瘡ケアセンター長 古田 勝経 先生

参加者 48名（病診部会22名・薬局部会16名、非会員10名）

(2) 日時：7月9日（火）19：00～20：30 WEB開催

テーマ：高齢者の身体機能・生活環境に応じた服薬支援

一般講演「嚥下の基礎と現場で役立つ嚥下評価～言語聴覚士の視点から～」

講師 洛和会音羽病院 リハビリテーション部 係長 前川 大史 先生

特別講演「摂食嚥下障害と錠剤(薬)嚥下障害」

講師 昭和大学薬学部 社会健康薬学講座 社会薬学部門 客員教授
臨床薬学講座 臨床栄養代謝学部門 客員教授 倉田 なおみ 先生

参加者 188名（病診部会98名、薬局部会89名、非会員1名）

(3) 日時：12月1日（日）19：00～20：30 会場：府薬ホール

テーマ：みんなで学ぼう!! 病棟業務 ～薬学的管理をPOSで考えよう～

講義「POSを用いた薬学的管理を学ぼう」

講師 愛生会山科病院 薬剤部長 樋口 眞宏先生

グループディスカッション「薬学的管理を実践してみよう」

講師 愛生会山科病院 薬剤部長 樋口 眞宏先生

参加者 8名

2. 薬剤師のための精神科セミナー

日時：2月9日（日）13：15～16：00 WEB開催

特別講演1「精神科薬物療法における薬剤師の役割～多職種連携と治療支援への取り組み～」

講師 京都大学医学部附属病院 薬剤部 山本 将太 先生

特別講演2「精神疾患及び向精神薬治療における慢性便秘症の現状と課題
～精神科患者の特性に適した便秘薬選択～」

講師 独立行政法人国立病院機構 榊原病院 副院長 山本 暢朋 先生

参加者 154名（病診部会83名、薬局部会71名） 日病薬専門認定受講証11名交付

3. 診療所薬剤師交流会（1回）

日時：2月8日（土）14：00～16：00 会場：九条診療所

講演「最新の認知症治療」

講師 九条診療所 所長（脳神経内科専門医） 河本 恭裕 先生

意見交換会

参加者 10名

令和6年度 病院診療所薬剤師部会 事業報告

令和6年度 部会総会 1回（5月19日）

評議員会・部会長会 11回（4月19日、5月24日、6月28日、7月26日、9月20日、10月18日、11月15日、
12月20日、1月17日、2月21日、3月21日）

賛助会員向け病院薬剤部見学会 実施施設8施設（見学実績176名（延べ）、31社、65回）

日本病院薬剤師会 ・近畿ブロック 事業

役職		役員氏名	会名	開催年月日	出席者
日病薬 担当役員	会長	四方 敬介	地方連絡協議会	10月21日	四方
	代議員（3名）	土谷 有美	第69回通常総会 第70回臨時総会	6月15日 2月22日	土谷・長谷川・三浦
		長谷川 晃司			
		三浦 誠			
日病薬：中小病院委員会				8月18日 12月8日	仁丹
役職		氏名	会名	開催年月日	出席者
近畿ブロック会議（会長・副会長・委員長）			近畿ブロック会議 WEB開催	1月22日	会長・副会長・評議員（12名）
会長会		四方 敬介	会長会	7月19日	四方
			会長・委員長会	12月17日	四方・竹田
近畿 ブロック 委員会	中小病診	樋口 眞宏	委員会	11月11日 2月15日	樋口・三浦
		三浦 恭子			
	薬事制度 （委員長）	長谷川 晃司	委員会	11月18日	長谷川・竹田
		竹田 和也			
	卒前・卒後教育	橋元 誠	委員会	10月29日	橋元・大津山
		大津山 裕美子			
	社会保険	林 明仁	委員会	10月22日	林・佐藤
		佐藤 和生			
	生涯研修	岡橋 孝侍	委員会	10月21日	岡橋・瀧
		瀧 紹代			
	学 術	小野 勝	委員会	6月11日 11月13日	小野・林
		林 千麗			
	薬剤業務	仁丹 裕子	委員会	11月22日	仁丹・岩根
		岩根 裕紀			
日病薬：病院薬剤師確保に関する説明会（Web）				5月14日	四方

病院診療所薬剤師部会役員名簿	役職	氏名	施設名
	部会長	四方 敬介	京都薬科大学
	副部会長	友金 幹視	京都第二赤十字病院
		長谷川 晃司	京都中部総合医療センター
		土谷 有美	京都第一赤十字病院
		池見 泰明	京都大学医学部附属病院
	評議員 WG統括	黄前 尚樹	医療法人社団洛和会 洛和会東寺南病院
		岡橋 孝侍	京都第二赤十字病院
		小野 勝	地方独立行政法人 京都市立病院機構 京都市立病院
		小阪 直史	京都府立医科大学附属病院
		須田 慈子	医療法人徳州会 六地蔵総合病院
		辻本 千代美	医療法人福知会 もみじヶ丘病院
		林 明仁	社会福祉法人恩賜財団 京都済生会病院
		三浦 誠	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
	評議員	足垣 亮介	市立福知山市民病院
		岩根 裕紀	社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院
		大津山 裕美子	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
		佐藤 和生	一般財団法人日本バプテスト連盟医療団日本バプテスト病院
		友沢 明德	医療法人同仁会（社団） 京都九条病院
		瀧 紹代	（独）地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター
		竹田 和也	舞鶴共済病院
		土淵 尚也	京都府立医科大学附属北部医療センター
		仁丹 裕子	亀岡市立病院
		橋元 誠	三菱京都病院
		林 千麗	医療法人財団康生会 武田病院
		樋口 眞宏	一般社団法人 愛生会山科病院
		三浦 恭子	公益社団法人京都保健会 九条診療所
		森本 和雄	社会福祉法人京都社会事業財団 京都からすま病院
		和田 昭	京丹後市立久美浜病院
	顧問	川勝 一雄	医療法人稲門会 いわくら病院
		寺田 智祐	京都大学医学部附属病院

WG名	役職	会員名	施設名
管理職等交流WG	統轄	林 明仁	社会福祉法人恩賜財団 京都済生会病院
	担当副部長	土谷 有美	京都第一赤十字病院
	評議員	友沢 明德	医療法人同仁会（社団） 京都九条病院
		佐藤 和生	一般財団法人日本バプテスト連盟医療団日本バプテスト病院
		橋元 誠	三菱京都病院
		林 千麗	医療法人財団康生会 武田病院
		樋口 眞宏	一般社団法人 愛生会山科病院
表彰WG	統轄	小阪 直史	京都府立医科大学附属病院
	担当副部長	土谷 有美	京都第一赤十字病院
	顧問	川勝 一雄	医療法人稲門会 いわくら病院
人財確保WG	統轄	黄前 尚樹	医療法人社団洛和会 洛和会東寺南病院
	担当副部長	長谷川 晃司	京都中部総合医療センター
	評議員	橋元 誠	三菱京都病院
		和田 昭	京丹後市立久美浜病院
調査研究WG	統轄	長谷川 晃司	京都中部総合医療センター
	担当副部長	友金 幹視	京都第二赤十字病院
		小阪 直史	京都府立医科大学附属病院
		足垣 亮介	市立福知山市民病院
		竹田 和也	舞鶴共済病院
		辻本 千代美	医療法人福知会 もみじヶ丘病院
		土淵 尚也	京都府立医科大学附属北部医療センター
		仁丹 裕子	亀岡市立病院
		和田 昭	京丹後市立久美浜病院
		森本 和雄	社会福祉法人京都社会事業財団 京都からすま病院
	委員	野口 裕介	京都第二赤十字病院
連携支援WG	統轄	友金 幹視	京都第二赤十字病院
	担当副部長	土谷 有美	京都第一赤十字病院
	評議員	岩根 裕紀	社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院
		小野 勝	独立行政法人京都市立病院機構 京都市立病院
		友沢 明德	医療法人同仁会（社団） 京都九条病院
		三浦 誠	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
		森本 和雄	社会福祉法人京都社会事業財団 京都からすま病院
	委員	吉田 優子	京都大学医学部附属病院薬剤部
		板倉 祥嗣	京都第一赤十字病院
		加藤 良隆	京都第二赤十字病院
		楠川 侑吾	地方独立行政法人 京都市立病院機構 京都市立病院
		田渕 祐輔	京都府立医科大学附属病院
		伴 具也	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
		塚原 優太	国立病院機構 京都医療センター
		東 碧	京都中部総合医療センター
情報通信WG	統轄	岡橋 孝侍	京都第二赤十字病院
	評議員	足垣 亮介	市立福知山市民病院
		小阪 直史	京都府立医科大学附属病院
	委員	井岡 真佐夫	京都第一赤十字病院
業務推進WG	統轄	小野 勝	独立行政法人京都市立病院機構 京都市立病院
	評議員	大津山 裕美子	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
		岩根 裕紀	社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院
		竹田 和也	舞鶴共済病院
	委員	菱田 啓介	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
		大坪 達弥	京都第二赤十字病院
		芝田 雄登	京都府立医科大学附属病院
		多留木 崇志	地方独立行政法人 京都市立病院機構 京都市立病院
		林 良壮	三菱京都病院
		堀内 望	社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院

WG名	役職	会員名	施設名
精神療養中小WG	統轄	辻本 千代美	医療法人福知会 もみじヶ丘病院
	評議員	須田 慈子	医療法人徳洲会 六地藏総合病院
		友沢 明德	医療法人同仁会（社団） 京都九条病院
		樋口 眞宏	一般社団法人 愛生会山科病院
		三浦 恭子	公益社団法人京都保健会 九条診療所
		垣内 淑子	医療法人長安会 中村病院
	委員	多胡 和樹	医療法人社団洛和会 洛和会音羽リハビリテーション病院
		東原 和美	（一財）日本パプテスト連盟医療団 パプテスト老人保健施設
		南田 祐子	医療法人社団医聖会 八幡中央病院
会員交流WG	統轄	須田 慈子	医療法人徳洲会 六地藏総合病院
	評議員	土淵 尚也	京都府立医科大学附属北部医療センター
		仁丹 裕子	亀岡市立病院
		大林 巧志	京都第一赤十字病院
	委員	岡田 悠子	医療法人社団洛和会 洛和会音羽記念病院
		清水 大生	京都府立医科大学附属病院
		長谷川 広樹	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
		牧野 洸太郎	京都府立医科大学附属病院
		四方 友也	綾部市立病院
領域別支援WG	統轄	三浦 誠	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
	担当副部会長	池見泰明	京都大学医学部附属病院
	評議員	岩根 裕紀	社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院
		黄前 尚樹	医療法人社団洛和会 洛和会東寺南病院
領域別支援WGグループリーダー		友沢 明德	医療法人同仁会（社団） 京都九条病院
	1消化器	苅田 明子	京都第一赤十字病院
	2循環器	大森 清孝	医療法人社団洛和会 洛和会東寺南病院
	3呼吸器	長谷川 広樹	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
	4糖尿病	瀬下 貴大	京都第二赤十字病院
	5造血器	大坪 達弥	京都第二赤十字病院
	6免疫アレルギー	眞部 実穂	医療法人啓信会 京都きづ川病院
	7脳神経	川田 将義	京都大学医学部附属病院
	8産婦人科	弓木 栞里	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
	9整形外科	福田 喬士	京都第二赤十字病院
	10腎透析	岡田 悠子	医療法人社団洛和会 洛和会音羽記念病院
	11精神科	重面 雄紀	京都大学医学部附属病院
	12小児医療	楠川 侑吾	地方独立行政法人 京都市立病院機構 京都市立病院
	13高齢者医療	東原 和美	（一財）日本パプテスト連盟医療団 パプテスト老人保健施設
	14周術期医療 21NST	加藤 良隆	京都第二赤十字病院
	15集中治療 22救命救急	岩内 大佑	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
	16緩和ケア	三松 史野	地方独立行政法人 京都市立病院機構 京都市立病院
	17外来がん治療	野口 裕介	京都第二赤十字病院
	18医薬品情報	大林 巧志	京都第一赤十字病院
	19医療安全	山本 崇	京都大学医学部附属病院
	20感染制御	川口 皓平	京都第二赤十字病院
	23災害医療	柏原 陽平	京都第一赤十字病院
	24医療情報	芝田 雄登	京都府立医科大学附属病院
	25在宅医療	樋口 眞宏	一般社団法人 愛生会山科病院

令和7年度 病院診療所薬剤師部会 事業計画・予算(案)

	事項	会議名・行事名など		計	予算内訳
1	近畿ブロック	日病薬 近畿ブロック会長会・委員長会、ブロック会議、各委員会	①日病薬 近畿ブロック 会長会・委員長会 会議 年2開催 ②日病薬 近畿ブロック会議 年1回 兵庫県 集合開催 ③日病薬 近畿ブロック 7委員会 会議 秋期開催予定 委員各2名	83,000	会長・委員長会:交通費 10,000円×2名=20,000円 ブロック会長会費:分担金 20,000円 ブロック会議:負担金 1,000円×15名=15,000円
2	病診部会	病診部会 会長会・評議員会 会議	①部会長会 会議 6回(WEB 6回) ②評議員会 会議 6回(WEB 6回)	408,200	部会長会:日当 115,200円 評議員会:日当 288,000円 資料印刷:消耗品費 5,000円
3	事務局	病診部会 施設定期便・臨時便、特別会員定期便 送付	施設宛 定期便・臨時便 (日病薬 現状調査依頼 他)	281,200	施設便送料200施設×送料88円×12回=211,200円 臨時便200施設×送料100円×2回=40,000円 消耗品費:印刷費 30,000円
予算小計(WG活動費除く。1000円未満切り上げ。)				774,000円	

令和7年度 病院診療所薬剤師部会【10WG】事業計画・予算案

No.	WG	会議名・行事名など	実施日・実施回数	合計	予算内訳
1	管理職等交流WG	部会総会・表彰式・学術講演会	令和7年5月11日	134,500	通信運搬費:選挙関連資料、委任状送付及び提出送料:40,000円 消耗品費:選挙関連・総会関連資料・事業報告書17,000円 諸謝金:講演料35,000円 表彰者への贈答費(生花):3,000円×10人=30,000円 交通費:講師旅費10,000円 消耗品費:単位申請2,500円×1回=2,500円
2	管理職等交流WG	管理職等交流会 MR交流会	1回 1回	162,500	通信運搬費:案内・資料送付20,000円 消耗品費:資料作成5,000円×2回=10,000円 諸謝金:講演料35,000円×2回=70,000円 交通費:講師旅費30,000円×2回=60,000円 消耗品費:単位申請2,500円×1回=2,500円
3	領域別支援WG	領域別薬剤師カンファレンス合同研修会 25領域カンファレンス	2回 各領域毎	275,000	消耗品費:単位申請3,500円×2回=7,000円、資料作成:3,000円 諸謝金:講演料10,000円×12回=120,000円 諸謝金:講演料5,000円×11回=55,000円 交通費:講師旅費10,000円×9回=90,000円
4	調査研究WG	会員からの学会発表等に関する相談応需 製薬企業からの研究および調査に関する相談応需	1回	60,800	消耗品費:単位申請5,800円、資料作成:5,000円 諸謝金:講演料35,000円×1回=35,000円 交通費:講師旅費15,000円×1回=15,000円
5	調査研究WG	病院薬剤師充足調査の実施 各WG活動等を検証するための調査の提案	1回	20,000	消耗品費:調査資料作成 10,000円 倫理審査費:10,000円
6	表彰WG	表彰募集・審査会・表彰式	令和7年5月11日	10,000	消耗品費:賞状作成10,000円
7	連携支援WG	連携支援関係資料作成・広報 服薬フォローアップに係る研修会	1回	28,800	消耗品費:単位申請5,800円 資料作成:5,000円 諸謝金:講演料5,000円×3人×1回=15,000円 交通費:講師旅費1,000円×3人×1回=3,000円
8	会員交流WG	新任薬剤師等交流会	令和7年8月2日	30,500	消耗品費:資料作成3,000円、単位申請2,500円 諸謝金:講演料20,000円 交通費:講師旅費5,000円
9	会員交流WG	会員交流イベント(植物園見学会)	令和7年10月18日	10,000	消耗品:広報・資料作成 10,000円
10	精神療養中小WG	精神療養中小病診研修会「褥瘡実技研修」 精神療養中小病診研修会「回復期病棟における薬剤師のためのかわり方」 薬剤師のための精神科セミナー	令和7年7月13日 1回 1回	140,400	消耗品費:・単位申請5,800円×3回=17,400円、資料作成:3,000円 諸謝金:講演料30,000円×3回=90,000円 交通費:講師旅費10,000円×3回=30,000円
11	精神療養中小WG	精神・療養・中小病診交流会、診療所薬剤師交流会	4回	24,000	消耗品費:資料作成1,000円×4回=4,000円 諸謝金:講演料10,000円×1回=10,000円 交通費:講師旅費10,000円×1回=10,000円
12	業務推進WG	臨床薬剤業務やチーム医療に関する研修会	2回	114,600	消耗品費:単位申請5,800円×2回=11,600円、資料作成:3,000円 諸謝金:講演料35,000円×2回=70,000円 交通費:講師旅費15,000円×2回=30,000円
13	人財確保WG	病院ふれあいフェスタ2025	令和7年10月5日	864,000	消耗品費:資料作成30,000円 学生用弁当:164,000円 会場費:ニプロ棟280,000円 通信運搬費:案内送付:10,000円 諸謝金:講演料20,000円 交通費:講師旅費10,000円 業務委託費:350,000円
14	人財確保WG	病院就活応援WEBセミナー	3回	123,000	通信運搬費:案内送付:30,000円 ライン広報:5500円/月×6か月=33,000円 諸謝金:講演料20,000円×3回=60,000円
15	人財確保WG	薬学実務実習「舞鶴プログラム」実施支援	1回	150,000	通信運搬費:案内送付:50,000円 資料印刷費=100,000円
16	情報通信WG	京病薬HPの充実	1回	50,000	委託費:京病薬HP変更委託費50,000円
17	10WG	病診部会 10WG 会議	各WG毎WEB開催	505,600	管理職等交流WG(7名) 2回 22,400円 表彰WG(3名) 2回 9,600円 領域別支援WG(28名) 2回 89,600円 連携支援WG(15名) 4回 96,000円 情報通信WG(4名) 2回 12,800円 精神療養中小WG(9名) 4回 57,600円 会員交流WG(9名) 4回 57,600円 業務推進WG(10名) 4回 64,000円 人財確保WG(4名) 4回 25,600円 調査研究WG(11名) 4回 70,400円
小計(WG活動費分。1,000円未満切り上げ。)				2,704,000	

病診部会費(WG活動費除く)	774,000
病診部会 WG活動費	2,704,000
予算総合計	3,478,000